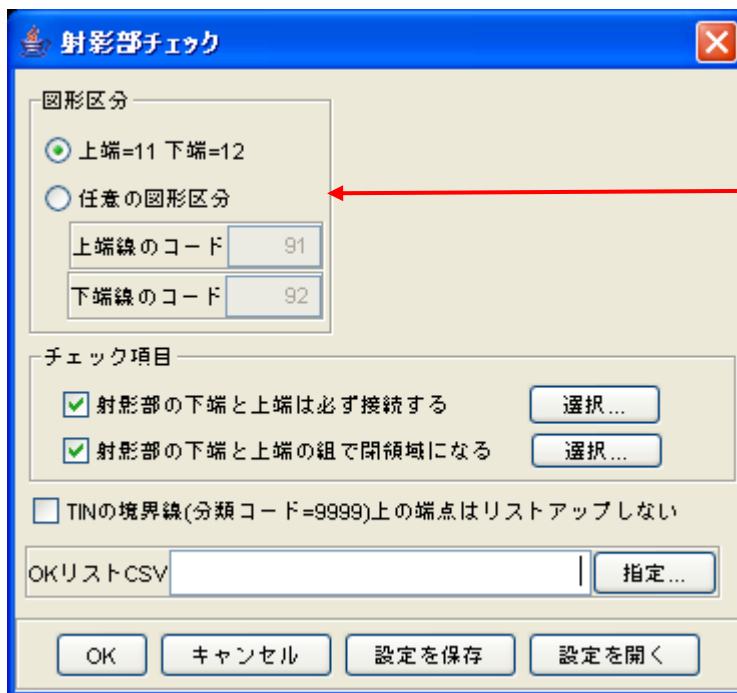


## 1. 射影部チェック

メニュー[チェック]-[射影部チェック]に、任意の図形区分を上端線・下端線とみなしてチェックできるようにしました。



### 【図形区分】

デフォルト(上端=11 下端=12)では、図形区分=11 の上端線と 12 の下端線をチェックしますが、「任意の図形区分」では、指定されたコードを上端線、下端線とみなしてチェックします。

## 2. 点要素チェック

メニュー[チェック]-[点要素チェック]の「同一座標(XY)」の検出に、オプション「同一分類コードならば削除する」を追加しました。

**点要素チェック**

対象

すべての点(E5)

分類コードで指定

内容

リストアップ

同一座標(XY)

同一分類コードならば削除する(XY) ←

同一座標(XYZ)

同一分類コードならば削除する

標高値が0.0の3次元点要素

範囲外の標高値

最高標高値	40.0	m以上
最低標高値	-10.0	m以下

TINからの高さ

標高差  m以上

OKリストCSV

オプション

レポートパネル出力

【同一座標(XY)】 指定された分類コード間の点要素について、同一 XY 座標があればリストアップします。

【同一分類コードならば削除する(XY)】 同一 XY 同一分類コードの点のどちらかを削除します。

DM データファイル中で、後にある方の点を削除します。

【同一座標(XYZ)】 指定された分類コード間の点要素について、同一 XYZ 座標があればリストアップします。

【同一分類コードならば削除する】 同一 XYZ 同一分類コードの点のどちらかを削除します。

### 3. 点列チェック

メニュー[チェック]-[点列チェック]に「同一 XY 座標点を削除する」を追加しました。

点列チェック

チェックと処理

面積がゼロの面(E1)

長さがゼロの線(E2)

すべての点在同一座標(XYZ)  面・線要素を削除する

次の点在同一座標(XYZ)  同一座標点を削除する

次の点在同一座標(XY)  同一XY座標点を削除する

次の点が近接(XY)  表現補助データは対象外

自己交差(XY)  表現補助データは対象外  端点の接触は対象外

-999.0以下とそれ以外のZ値の混在

OKリストCSV

オプション

ファイル別に並び替えてリスト表示

レポートパネル出力

【面積がゼロの面(E1)】面(E1)について、面積がゼロの要素をリストアップします。頂点数が3以下の場合は面積がゼロになりますから、頂点数3以下のケースの検出にも使えます。

【長さがゼロの線(E2)】線(E2)について、長さがゼロの要素をリストアップします。

【すべての点在同一座標(XYZ)】面と線要素について、全ての点のXYZ座標が同じになっていて、一点に縮退しているものをリストアップします。

[面・線要素を削除する]を指定すると、該当する要素を削除します。

【次の点在同一座標(XYZ)】面と線要素の点列について、同じXYZ座標が続いている点をリストアップします。

【同一座標点を削除する】検出した点を削除して、同じXYZ座標が続かないようにします。

削除した点は[確認リスト]にリストアップします。

【次の点在同一座標(XY)】面と線要素の点列について、同じXY座標が続いている点をリストアップします。

Z値が同じ場合も、異なっている場合の両方をリストアップします。

【同一XY座標点を削除する】検出した点を削除して、同じXY座標が続かないようにします。

後の方の点を削除します。

削除した点は[確認リスト]にリストアップします。